

博士前期課程(修士) / 実践看護学領域 / 成人看護学分野科
目コード:240008-0

緩和ケア演習Ⅱ Palliative care Ⅱ

担当教員	臺 美佐子、瀧澤 理穂				
実務経験					
開講年次	1年次後期	単位数	2	授業形態	演習
必修・選択	選択	時間数	45		
該当ディプロマポリシー	(1)	(2)	◎	(3)	○
Keywords	がん看護、緩和ケア、終末期、倫理調整、在宅緩和、チーム医療				
学習目的・目標	学習目的: がん患者の緩和ケアについて、患者および家族に生じる問題のアセスメントと問題解決に向けた看護実践を学ぶ。さらに、適切な倫理調整およびがん相談支援技術を身につけ、施設内外における患者のみならず医療者への支援の実践能力を養う。 学習目標: 1. 緩和ケアにおいて生じる特徴的な症状や全人的苦痛を理解し、倫理的問題および倫理調整についてその解決法を身につける。 2. 終末期における療養支援の実践に向けて、療養の場の選択とその特徴について理解し、看護師の専門的役割と機能の視点を踏まえた援助のあり方について検討できる。 3. 緩和ケアチームにおける看護師の役割を理解し、多様な環境における実践での工夫について提案できる。				
授業計画・内容					
回	内容			授業方法	担当
1-2	緩和ケアにおけるがん患者の身体的・心理的・社会的特徴と変化			講義・討議	臺
3-4	がん患者に対するリンパ浮腫ケア			講義・討議	臺
5-10	がん看護における倫理的問題の調整と看護援助			講義・討議	臺
10-11	在宅緩和ケアの実際と課題			講義・討議	臺・瀧澤
12-17	終末期がん患者の看護技術			講義・演習	臺・瀧澤
18-19	終末期における家族ケア			講義・討議	臺
20-25	緩和ケアチームにおける看護師の専門的役割			討議	臺
教科書					
参考図書等	随時紹介する				
評価方法・基準	グループワークやディスカッションへの態度(50%)およびレポート(100%)				
関連科目	緩和ケア演習Ⅰ がん看護学実習Ⅲ				
教員から学生へのメッセージ	この演習では、がん患者の緩和ケアにおける専門的な看護実践方法について学びます。国内外の論文や情報による最新の知見や、症例提示による看護実践の実際を学び、ディスカッションを行うことで、実践技術の展開や各症例に適應する方法の提案につながることを期待しています。				

